

中等教育における外国語自律学習のための教材開発研究

— 多言語 E-learning ソフトの開発 —

竹内 敦子 (関東国際高等学校)

1. はじめに

近年の科学技術の著しい発展によって国際化が広がり、他国の文化圏に暮らす人々や他文化を背景にもつ人々との交流が盛んに行われるようになった。21世紀グローバル社会においては「英語+ α 」の多言語に精通し外国の文化や情報を受容すると同時に、それらの言語で積極的に自分の意思やさまざまな情報を発信することができる人材が求められている。こうした真の国際人の育成のために、日本の中等教育においても英語教育や英語以外の外国語教育の重要性および国際交流の機会を多く設ける必要性が今後ますます高まっていくだろう。

現在、英語以外の外国語教育に力を入れている学校はそれほど多くはないが、筆者が勤務する関東国際高等学校では、早くからその必要性に気づき「英語+英語以外の外国語」の教育に力を注いできた。特に日本の「近隣諸国」に着目し、1986年に中国語コース、1991年にロシア語コース、2000年に韓国語コースを設立し、2007年にはタイ語・インドネシア語・ベトナム語コースを新設した。本校では、英語および英語以外の専攻言語を1～3学年でそれぞれ6時間ずつ、3年次にはさらに選択科目としてプラス3時間を履修することができ、3年間で18時間（最大で21時間）学習することができる。

外国語を習得するには、学校の授業時間だけでは十分ではなく、授業以外での自律学習が重要なポイントとなる。本来、自律学習は生徒本人が自主的に行うものであるが、与えられることに慣れてしまっている現代の生徒たちに外国語学習の楽しさを実感させることで学習意欲を持続させ、自分から進んで学習する態度を身につけさせたい。外国語学習で必要不可欠な「主体的自律学習能力」を養う効果的な方法のひとつとして昨年度から取り組んでいる E-learning 教材の成果を分析し、自律学習に効果的な E-learning ソフトの開発研究を行い、今後の E-learning 学習の可能性を探ることとする。

2. E-learning 教材作成・活用状況

2-1. パソコンに対する意識

筆者が勤務する学校では「ごきげんようネット」を通じて生徒の学習支援を行い、どの家庭からも校内の様子を知ることができるように、必要な家庭にはパソコンを貸与している。したがって E-learning 学習対象者は全員がパソコンを所有していることになる。生徒のパソコン使用状況は以下の通り。

<パソコン使用率>

パソコン所有	86名	100%
パソコン使用者数	80名	93%

* アンケート結果から、生徒たちが日常からパソコンに慣れ親しんでおり、趣味・娯楽面だけでなく、学習面においてもパソコンを積極的に活用していることがわかる。

<パソコン使用目的> * 複数回答

情報収集	メール	文書作成	写真整理	調べ学習
85%	64%	26%	39%	55%
宿題	音楽	映画・DVD	ゲーム	その他
42%	86%	58%	42%	14%

<パソコン使用頻度>

1日の使用時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間以上
	23%	38%	23%	11%	4%	1%	1%
1週間の使用日数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	毎日
	8%	11%	16%	11%	14%	8%	33%

2-2. E-learning 実施状況

筆者が勤務する学校では2008年度から中国語・ロシア語・韓国語コースに置いて、E-learning ソフトを利用して自律学習を促すための教材を作成し、生徒に学習させてきた。

2008年度は1年生41名（中国語20、ロシア語11、韓国語10）を対象とし、各言語の学習語彙（中国語600、ロシア語360、韓国語450）をもとに作成したドリル問題を授業で数回実施した後、自宅学習をさせた。

E-learning システム導入の初年度で教員側も手探り状態で教材の作成をしていたこともあり、問題が単調であったり、問題数が不十分であったり、生徒への意欲付けが不十分であったため、E-learning 教材を自律学習教材としてうまく活用させることができなかった。しかし、どのコースでも言えることだが、自発的に積極的に繰り返し E-learning 問題に取り組んだ生徒は、定期試験や小テストにおいておおむねその成果があらわれていた。

今年度は1年生41名（中国語14、ロシア語6、韓国語21）を対象に、各言語の学習語彙ドリル問題に加え、定期試験対策問題、各種検定対策問題、長期休暇課題などの問題数を増やし、生徒たちに学習させた。また、2年生に関しては、検定試験対策、定期考査前の自主学習や長期休暇の課題とその確認テストに用いるなど、各言語コースにより活用状況は異なる。

筆者が教えているロシア語コースでは、日常のさまざまな場面に適した会話表現を身につけること、より多くの語彙を覚えることに重点をおいてネイティブ教員が独自で作成した教材・市販の入門的テキスト・聴覚トレーニング教材などを利用し、ネイティブ教員と協議しながら授業を展開している。E-learning 教材では主に基本語彙や文法問題を中心に扱い、複雑なロシア語文法を理解するために活用した。

<2009年度 実施状況>

	中国語	ロシア語	韓国語
1年生(人数)	14	6	21
教材総数	37	35	44
教材形式/内容	・別枠選択問題 ・発音問題 ・並べ替え問題 ・単語問題 ・○×問題 ・検定対策問題	・別枠選択問題 ・発音問題 ・アクセント問題 ・単語問題 ・文法問題	・別枠選択問題 ・発音問題 ・単語問題 ・検定対策問題
2年生(人数)	27	11	10
教材総数	28	18	12
教材形式/内容	・別枠選択問題	・文法問題(選択) ・文法問題(記述)	・検定対策問題

2-3. E-learning 教材の学習効果

各言語コース（1年生）の定期試験における学習効果について、以下のような結果が得られた。いずれも2009年12月の2学期中間考査までの結果である。

<中国語コース:14名>

アクセス回数	E-learning 正答率	定期試験での得点平均
16回以上	85%	71点
11~15回	70%	68点
6~10回	68%	59点
5回未満	58%	59点

<ロシア語コース>

学習者	試験対策への取り組み	定期試験での得点率
1	25%	29%
2	100%	81%
3	83%	33%
4	100%	100%
5	80%	77%
6	50%	69%

<韓国語コース>

試験対策への取り組み	人数	定期試験での得点平均
3回分の宿題すべて学習した	10人	84.5点
3回分の宿題学習していない	11人	67.2点

この結果から、E-learning 問題に積極的に取り組み、定期試験対策として活用した生徒の方が、定期試験での得点が高いことがわかる。

3. アンケート結果

2010年2月、今年度の1・2年生のE-learning学習対象者89名(3名未回答)に対してアンケートを実施した。日頃の語学学習におけるE-learning教材の使用頻度と使用目的、定期試験の準備としての活用度とそれによる結果、E-learning教材の利点、今後期待することなどを調査した。

1) 学校のE-learning教材を使用しているか？

	はい	いいえ
1年生	80%	20%
2年生	41%	59%
全体	59%	41%

2) 日頃の語学学習においてE-learning教材をどのくらい使用していますか？

	毎日	週に4~5回	週に2~3回	週に1回	月に2回	それ以下
1年生	0%	0%	13%	19%	34%	34%
2年生	0%	0%	5%	5%	32%	58%
全体	0%	0%	10%	14%	33%	43%

3) E-learning教材の1回あたりの使用時間は？

	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間以上
1年生	84%	13%	3%	0%	0%	0%	0%
2年生	74%	16%	0%	5%	5%	0%	0%
全体	80%	14%	2%	2%	2%	0%	0%

4) E-learning教材をどのような目的で使用しているか？

	授業の予習	授業の復習	定期試験対策	検定試験対策	その他
1年生	16%	44%	75%	31%	3%
2年生	16%	42%	58%	53%	16%
全体	16%	43%	69%	39%	8%

5) 定期試験対策として、E-learning教材をどのくらい活用したか？

	大いに活用した	だいたい活用した	少し活用した	あまり活用してない	まったく活用してない
1年生	10%	28%	30%	20%	13%
2年生	7%	7%	15%	11%	61%
全体	8%	16%	22%	15%	38%

6) 定期試験対策として、E-learning教材は役に立ったか？

	とても役に立った	だいたい役立った	まあまあ役立った	あまり役に立たない	ほとんど役に立たない
1年生	26%	40%	23%	9%	3%
2年生	28%	44%	22%	6%	0%
全体	26%	42%	23%	8%	2%

7) E-learning教材を活用した結果が定期試験の得点にあらわれているか？

	予想以上に得点できた	活用した分得点できた	まあまあ得点できた	少しだけ得点できた	ほとんど得点できなかった
1年生	11%	54%	17%	11%	6%
2年生	22%	17%	33%	22%	6%
全体	15%	42%	23%	15%	6%

8) E-learning 教材での学習の利点は？

	好きな時間にできる	場所を選ばない	学習意欲が高まる	間違いがすぐわかる	繰り返し学習できる	授業の予習に役立つ	授業の復習に役立つ	試験勉強に役立つ	ゲーム感覚でできる	その他
1年生	60%	17%	11%	51%	69%	14%	46%	74%	23%	3%
2年生	78%	33%	17%	67%	67%	28%	22%	39%	28%	0%
全体	66%	23%	13%	57%	68%	19%	38%	62%	25%	2%

9) 今後 E-learning 教材に期待すること

	音声も聞けるように	映像や写真を入れる	成績に反映してほしい	ゲーム的要素を入れる	携帯で使いたい	宿題を増やしてほしい	その他
1年生	65%	55%	18%	48%	38%	10%	13%
2年生	63%	57%	33%	41%	61%	15%	7%
全体	64%	56%	26%	44%	50%	13%	9%

1年生は今年初めて E-learning 教材を使用するため、教員の働きかけもあり教材の使用頻度が高くなっている。2年生は昨年度実施し、自律学習教材として十分に E-learning 学習を定着させることができなかったためか、使用頻度が極端に低くなっている。使用目的と使用頻度を見ると、主に定期試験対策として活用する生徒が多いせい、「月に2回かそれ以下」と答える生徒が7割以上を占めている。E-learning 教材が日常の授業の予習・復習としての連動性に欠けていることが伺える。

しかし、定期試験対策として E-learning 教材を活用したと答えた生徒たちの約7割が、「E-learning 教材が役に立った・だいたい役に立った」と感じており、約6割が「定期試験で予想以上に得点できた・活用した分だけ得点できた」と答えている。

アンケートで「E-learning 教材を使用しない」と答えた理由は以下のようなものだった。

- ・ サイトが分からない。使い方がわからない。ID とパスワードを忘れた。(14)
- ・ 存在を知らなかった。(5)
- ・ つい忘れてしまうから。(5)
- ・ パソコン自体あまりつけないから。暇がないから。(5)
- ・ 使わなくても勉強できるし、何も問題ないから。(2)
- ・ 出題が毎回同じパターンだから。単調なので自発的に学習する気にならない。(2)
- ・ 目が極端に疲れる。パソコンの速度が遅いから。パソコンが壊れている。(2)
- ・ パソコン＝遊びというイメージが大きく、パソコンに向かって勉強というのが想像できない。
- ・ 身につく実感がない。書いて覚えるのが基本。

4. 今後の課題

これまでの研究から、外国語教育において E-learning 教材を有効的に活用することによって語彙力が増加し、生徒の自発的な学習意欲を育て自律学習能力を高め、学習している言語および異文化への興味も引き出すことが十分可能であると思われる。

今後の課題として、① E-learning 学習を自律学習ツールとして定着させていくこと。定期試験対策としてだけでなく、日頃の学習進度にあわせて E-learning 教材をうまく連動させていけるように計画的に問題作成に取り組むこと ②生徒が興味を持って積極的に取り組んでいけるように工夫すること。「勉強＝苦痛」だけというイメージを壊し、「勉強＝楽しい」というイメージも持たせるために、以下のような教材開発の可能性を探っていきたい。

- 音声や画像・映像を使った出題をする。
- 楽しみながら語学が身につくように、ゲーム的な要素を取り入れる。
- 語学の勉強だけでなく、文化的な知識問題を取り入れる。